

火災リスクアセスメントの具体的な実施手順について

火災リスクアセスメント（以下、火災 RA）の実施にあたり、詳細な実施手順を記載する。

実施方法：本部配布の火災 RA シート（Excel またはツール）を用いて、各部屋を使用または管理している者が実施する。

原則：シートは 1 部屋につき 1 枚使用し、2 部屋以上の火災 RA を実施する場合はシートの枚数を増やして対応する。

●STEP 0

必要事項の記入

シートに必要項目を記入する。*****は必須項目のため必ず記入すること。

【部局名】 *	プルダウンリストから選択する。直接記入不可。該当する項目がない、どの項目を選べばよいかわからない場合は、部局の環境安全管理室を通じて本部環境安全課に問い合わせを行う。
【専攻名等】 *	火災 RA を実施する者（以下、実施者）の所属する専攻を記入する。複数の専攻所属者が共同で実施する場合は、実施結果に責任を持つ者（以下、実施責任者）の所属を記入する。
【研究室名等】	実施者が所属する研究室名（職員の場合は所属する部署名）等を記入する。複数の研究室等が共同で行う場合は、実施責任者の所属する研究室等を記入する。
【職名】 *	実施責任者の職名を記入する。実施責任者は原則としてその部屋の管理に責任を持つ者とする。

【実施責任者】*	火災 RA の結果に責任を持つ者の氏名を記入する。実施責任者は原則としてその部屋の管理に責任を持つ者とする。
【担当者】*	火災 RA の実施を担当した者の氏名を記入する。実施責任者が担当者を兼ねても良いが、その場合も氏名を記入すること。
【参加者】	担当者と共に火災 RA を実施した者がいれば、氏名を記入する。複数名記入する場合は「,」で区切るなど、わかりやすく記入する。
【実施日 (西暦・月・日)】*	実施日を記入する。数日にわたって実施した場合は、その部屋の火災 RA が終了した日を実施日とする。
【キャンパス名】*	プルダウンリストから選択する。主要なキャンパス以外は所在地の住所から選択すること。並び順は、事業場 16 箇所→その他の施設（都道府県番号順）となっている。
【建物名】*	本郷、駒場Ⅰ、駒場Ⅱ、柏、柏Ⅱ、白金台の 6 キャンパスはプルダウンリストから選択する。それ以外の建物については実施する部屋のある建物名を直接記入する。
【階】*	本郷、駒場Ⅰ、駒場Ⅱ、柏、柏Ⅱ、白金台の 6 キャンパスはプルダウンリストから選択する。それ以外の建物については実施する部屋のある階を直接記入する。

<p>【調査対象室】*</p>	<p>実施する部屋の名称を直接記入する。 廊下など、部屋単位で数えることが難しい場所については、「○階廊下」として1枚のシートに記入する。(同じ階の廊下を複数の責任者が分担して実施する場合は東側・西側・○○号室前など、見返した際に実施位置がわかるように記入する。)</p>
<p>【用途】*</p>	<p>「実験室・研究室」「事務室等」のいずれかを選択する。実験室・研究室に該当しないものは全て「事務室等」として回答するが、フリーザー等実験機器が設置されている廊下については「実験室・研究室」に含めるものとする。</p>
<p>【連絡担当者】*</p>	<p>部局環境安全管理室、本部環境安全課より火災 RA の実施状況や内容について照会を行う場合がある。</p>
<p>【電話番号*・メールアドレス】</p>	<p>連絡先を記入する。電話番号は内線、外線どちらでもよい。メールアドレスは任意。<u>公開される情報であるため、必ず公用の連絡先とすること。</u></p>

次に、火災危険要因の抽出（STEP1）からリスクの算定（STEP3）までの流れを示す。

●STEP 1 火災危険要因の抽出

室内を確認し、火災危険要因となり得る機器や設備等を探す。

火災 RA シートに記入する際は、参考資料 4-8 (p.53-54) 火災危険要因一覧を参照の上、「用途、種目、細目」の順にプルダウンリストから選択すること。

該当する火災危険要因が一覧にない場合は、種目欄で最も近い項目、細目欄でその他を選択し、火災危険要因を直接記入する。

例：研究室の「テーブルタップ」を火災危険要因として挙げる場合

- ① 用途「実験室・研究室」を選択。
- ② 種目「コンセント・タップ類」を選択。
- ③ 細目「コンセント・プラグ・テーブルタップ」を選択。
- ④ （Excel の場合）「細目欄で「その他」を…」の項目は、③でその他を選択しない場合は記入不要。

項目	火災危険要因			状況
	種目	細目	細目欄で「その他」を選択した場合は詳細を記入	
1	コンセント・タップ類	コンセント・プラグ・テーブル		

●STEP 2 状況を確認し、火災発生可能性・火災被害の重大さを評価する

火災危険要因として挙げた機器・設備の状況を観察し、状況欄に記入する。火災発生可能性・火災被害の重大さの評価の判断基準となった事項等を記入すること。

「2-1 火災リスクアセスメントの方法」で示した火災発生可能性・火災被害の重大さの評価基準を参考に、それぞれ大・中・小の三段階で評価する。

●STEP 3 リスクの算定

火災リスクは、火災発生可能性・火災被害の重大さを記入すると自動で算定される。

項目	火災危険要因			状況	対策前		
					火災発生可能性	火災被害の重大さ	火災リスク
	種目	細目	細目欄で「その他」を選択した場合は詳細を記入		発火危険性	延焼拡大危険性 + 防火対策	
1	コンセント・タップ類	コンセント・プラグ・テーブル		機器の裏側にあり、埃が溜まっている。	中	中	リスク中

STEP 4 リスクへの対応

算定されたリスクの大きさを確認し、可能な範囲でリスクを低減するための対策を実施する。代表的な火災危険要因および考えられる対策内容については、「2-2 火災リスクアセスメントの具体的実施例」を参照すること。

対策内容を記入したら、STEP2 を参照し対策後の火災リスクを改めて算定する。

対策内容	対策後			未対応欄
	火災発生可能性	火災被害の重大さ	火災リスク	
	発火危険性	延焼拡大危険性 + 防火対策		
清掃を行い、埃を除去。 日頃から状態を確認できるよう、目に付く場所へ移動した。	小	中	リスク小	

●STEP5 提出まで

- (1) 室内の火災危険要因全てについて、STEP1～STEP4 を繰り返す。火災リスクに対して即座に対応できず後日対応となる場合や、担当部署に対応を依頼する場合は未対応欄にチェックを入れる。
- (2) 火災危険要因の抽出、対策が終了したら、防火上の確認事項(項目 1～4)

について確認し、チェックを入れる。「1. 緊急連絡先の確認」、「2. 消火器の確認」、「3. 避難路の確認」は必ずチェックを入れる。「4. その他（消防設備等）は、該当事項（屋内消火栓等）がある場合のみチェックを入れる。」

（3）記入漏れがないことを確認し、ツールの場合は「スプレッドシート作成」ボタンより、Excelの場合は部局担当部署ごとに指定する方法で提出する。

●FAQ

Q1.火災危険要因は存在するが、昨年度時点で対策済みである。どのように記入すれば良いか。

A1.火災危険要因が存在する場合は、以下の例を参考に記入してください。対策（点検）前後で結果に変化がない場合でも、毎年確認することが必要です。必ず対策後の火災発生可能性・火災被害の重大さの欄を埋めて提出してください。

細目	細目欄以外の他を選択した場合は詳細を記入	発火危険性	燃焼拡大危険性 +防火対策	リスク		発火危険性	燃焼拡大危険性 +防火対策	リスク
コンセント・プラグ・テーブルタップ	埃が溜まらないよう、定期的に清掃を実施している。付近に可燃物を置かないよう注意している。	小	小	リスク小	アセスメント実施 時点で対策済み	小	小	リスク小

Q2.室内に火災危険要因がない場合は白紙で提出して良いか。

A2.細目「コンセント・プラグ・テーブルタップ」は全ての部屋・廊下等において確認すべき火災危険要因ですので、必ず確認し1行目に記入してください。なお、1部屋に複数のコンセント口やプラグがある場合は、まとめて1つの火災危険要因として差し支えありません。ただし一部リスクの高いものがある場合は、それを特定できるよう個別に記入してください。すべて日常的に点検・清掃がされていて危険がないと判断した場合は、Q1と同様に対応してください。

確認の結果、室内・廊下に「コンセント・プラグ・テーブルタップ」が無かった場合は、来年度の参考にしますので、その旨を備考欄に記入してください。なお、火災発生可能性・火災被害の重大さを入力しないと提出ができないため、それぞれ小・小を選択してください。

Q3.シート提出時点で未対応の場合、対策後の火災発生可能性・火災被害の重大さはどのように記入すれば良いか。

A3.対策前と同様の評価（大、中、小）を記入して、未対応欄にチェックを入れてください。その後備考欄に、未対応理由等を記入してください。

ツールや Excel シートの記入に関する FAQ は、環境安全・安全衛生ポータル上に掲載しており、適宜更新を行っている。

https://univtokyo.sharepoint.com/:x/s/EHS_portal/ETUIYMP_pktCj4o2omNRhEBZHrKolyu2ustymHMTofkBg?e=ZcF92M

以上